

手荒れ

のもと皮膚科クリニック 野本 重敏

(2004年11月29日放送)

Q 手荒れとは？

A 寒い時期になると、手全体が乾燥してかさかさになって、皮が剥けてきたり、ひび割れを生じたりします。そのうちに皮膚が厚くなったり、指紋がなくなってしまったりすることもあります。こういう手の症状を「進行性指掌角皮症」や「主婦湿疹」といいます。

Q 主婦湿疹とは？

A 「主婦湿疹」とは、冬の低温と低湿度によって、皮膚の新陳代謝が低下して皮膚の潤いがなくなっていくことと、手を頻繁に洗剤で洗わなければいけないということが悪化要因として大きく、職業病の一つといってもよいでしょう。主婦の方を始め、調理師の方、医療従事者、美容師あるいは理容師の方、ビルなどの清掃関係のお仕事の方などにこの湿疹が多くなっています。

Q 手が荒れる環境とは？

A 手は体の中でもっとも環境と接する頻度が高い場所です。環境の中には様々な物質が存在していて、手は常にそれに曝されています。水や洗剤以外でも、例えば野菜などの食品、手袋、水道の蛇口、フライパン、冷蔵庫、掃除機、カバン、車のハンドル、電話、化粧品、毛染め剤、整髪料など、そういったものもすべて手への刺激となっている場合があります。たとえば、皮のカバンであれば、その中に含まれているクロムなどの金属によるアレルギー性の皮膚炎を起こす場合があります。アレルギー性の皮膚炎というのは、単に皮膚が乾燥したりひび割れたりするだけではなくて、皮膚が赤くなったり、細かい水疱を生じたりするもので、強いかゆみを伴います。そういう症状がある時は何かでかぶれているのではないかと疑って見る必要があります。たとえば美容師さんの中には、毛染め剤に含まれるパラフェニレンジアミンによるアレルギー性の皮膚炎に悩む方もいらっしゃる

います。

Q 手荒れの治療は？

- A 治療の基本はそのような刺激から手を保護するということです。それを行いながら外用剤による治療を行います。赤みやかゆみが強い場合にはステロイド外用剤を使って炎症を抑えます。乾燥やひび割れが強い場合には、ワセリンや尿素含有軟膏、ヘパリン類似物質含有軟膏といった保湿剤をうまく使って皮膚の状態を良好に保つことが重要になります。

Q 手を保護するには？

- A 職業柄、保護が難しい場合もあるかと思いますが、何とか工夫していただきたいと思います。何かでかぶれている場合には、手に透明な保護膜をつくるような製品もありますので、そういったものを使うのもよいでしょう。そのかぶれの原因物質が何であるかを確かめるため、パッチテストという検査を行うこともあります。